

# WEL・NET

# 通信



2024.5

発行日 令和6年 5月 1日  
発行 西広島リハビリテーション病院  
事業局  
☎ 082-921-3230 (代表)  
URL <https://www.welnet.jp/>  
E-mail [wel@welnet.jp](mailto:wel@welnet.jp)

- 特集 西リハ版リハビリノート xMOVIE
- 地域リハビリ研修会・地域連携活動
- メディア掲載・学会発表・転倒予防サポーターズ紹介

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介しますの広報誌です

いきいき!  
かみかみ!  
しゃきしゃき!

当院は広島県地域リハビリテーション広域支援センターとして、広島県・広島市の「住民主体の通いの場作り」等に協力し、体操導入支援や介護予防教室の講師を行っています。

▶▶▶ 6ページに関連記事

住民主体の通いの場にて、認知症予防のコグニサイズやしゃきしゃき百歳体操を紹介（五日市民館）



医療法人社団朋和会

西広島リハビリテーション病院



特集：伝わる・振り返れる！退院支援の新ツール

# 西リハ版リハビリノート & MOVIE

## 西リハ版リハビリノートとは

当院では、患者さん・ご家族に対して行う介助指導・自主トレ指導などの資料をまとめ、西リハ版リハビリノートとして、お渡ししています。当院が作成している豊富な資料・パンフレットのラインナップの中から、その方の退院後の生活に役立つものをピックアップしてファイリングし、作成します。お薬手帳ならぬリハビリ手帳として、ご自宅に帰られてから入院中に指導を受けた内容を思い出したり、他の医療・介護サービスのスタッフに自分のリハビリのことを説明したりする場合に、便利にお使いいただけます。

## MOVIE とは

2023年12月より、この西リハ版リハビリノートに、動画コンテンツ（通称 MOVIE）が加わりました。ノートの中に QR コードの一覧が入っており、そこから YouTube に UP されている動画をご覧ください。いつでもお時間のある時に、健康管理の知識や介助動作の基本などを確認できます。ラインナップは今後も拡大予定です。



## 介助指導の流れ

事前に MOVIE で予習し、基本的な動作について概要を理解していただいて、その後介助指導で、個別性のある指導を受けてもらう、という使い方を想定しています。



▲ コンパクトな薄型バージョン

その患者さんだけのカスタムメイドのノートです。書き込みをしたり、さまざまな資料を挟んでいただいたり、自由にお使いいただけます。



▲ 西リハ版リハビリノートを用いて介助指導を行っている様子

人気のコンテンツ

- ▲ 嚥下体操 ~くち~
- ▲ 片麻痺の方の階段昇降
- ▲ 失語症がある方とコミュニケーションをとる工夫
- ▲ 片麻痺の方の車の乗り降り
- ▲ 介助の手引き ~おむつ交換・陰部洗浄~

## 西リハ版リハビリノートについて

## Interview

## MOVIE について



看護介護部 副部長（看護師）  
西リハ版リハビリノートWG リーダー  
永見 茜



西 2 階病棟リハビリマネージャー  
家族教室チーム リーダー  
漆谷 直樹



## 在宅復帰に役立つツールを目指して

永見 もともとは、入院中のいろんな資料を整理してお渡しするための「生活のしおり」というものがあつたんですが、あまりうまく使えていない現状がありました。そこで、もっと使いやすく、在宅復帰に向けて必要な指導内容や進捗状況を患者さん・ご家族と共有できる新たなツールを作ろうということで、西リハ版リハビリノートの検討が始まりました。

## 介助指導はどう変わったか

永見 多くの患者さん・ご家族にとって介助ははじめての経験です。入院中の介助指導の場面ではできていても、家に帰ると環境も変わりますし、いざ生活の中で行おうとすると、「あれ？どうだったっけ」みたいなことが出てくるんですね。そんな時に振り返れるツールとして、リハビリノートは大きな役割を持ちますし、実際に患者さん・ご家族からのアンケートでも、そこにメリットを感じてくださっている意見を多くいただいています。

また、チームの中で介助指導の「見える化」ができるようになったことも大きな成果です。これまでチームの中で役割分担し計画的に行ってはいましたが、どういう資料を使って、いつ・誰が・誰に・どこまで行えているのか、という進捗状況を管理・共有できるようになりました。これは回復期の中だけでなく、退院後サービスの担当者の方への引継ぎにも言えます。何をどこまでやっていて、ここが課題、といったような、サマリーの中だけではなかなか伝えきれない情報を、退院前カンファレンスなどでスムーズに共有できるようになったと思います。

## 退院支援の流れを定着させ、レベルアップ

永見 今回家族教室とのコラボで MOVIE ができたことで、MOVIE で基本を学んで、介助指導で個別指導を受け、リハビリノートで復習する、という一連の流れが確立しました。これが当たり前で提供できるようになると、退院支援は 1 段階レベルアップすると思います。今後はアンケートの結果などをスタッフにもしっかりフィードバックし、浸透させていきたいと思っています。

## 家族教室から生まれたショートムービー

漆谷 以前は、「西リハ家族教室」として、ご家族向けに嚥下食を食べてもらったり、血圧を測ったりといった、実体験型の教室を開催していました。しかしコロナの感染拡大や、決まった時間に集まっていたのがご家族にとって不便ということもあって、その内容をショートムービーにして公開してはどうか、ということになったんです。最終的には介助指導で要望の多い車の乗り降りや階段昇降など新しい内容も加え、西リハ版リハビリノート MOVIE としてリリースすることになりました。

## 介助指導の予習ができるツールとして

漆谷 今まで何も知らない状態で介助指導が始まっていたわけですが、MOVIE を使うことで、最初にある程度基本の部分を押さえてもらうことができ、その後の介助指導も理解度が上がるのではないかと思います。動画は 2~3 分くらいで見られますし、いつでも、何度でも見られるのもいいところだと思います。

## まずはスタッフへの浸透を目指す

漆谷 MOVIE は始まったばかりなので、まずはスタッフに浸透させることですね。ご家族に「見ておいてください」というのもいいんですけど、ご面会に来られている時間などに、ちょっと一緒に見ましょうか、と説明しながら一緒に見る。そういうことが当たり前でできるようになるといいなと思います。職員には e ラーニングやデジタルサイネージで周知をしていますが、まだアピール不足かなと。もっともっと活用してもらって、その意見を取り入れて、さらにラインナップを増やしていきたいです。





# 地域リハビリ研修会



2023年11月～12月に実施した地域リハビリ研修会です！

当院は **地域リハビリテーション広域支援センター** です！

当院は、地域におけるリハビリテーション支援体制を推進するための施設として、広島県から指定を受けています。地域リハビリ活動の一環として、地域リハビリ研修会を年に数回開催している他、出前リハビリ講座の実施、広報誌やホームページ、ブログ「西リハ情報箱」での情報発信などを行っています。

全2回シリーズ

## 令和5年度 地域リハビリ研修会

そしろう



# 骨粗鬆症を予防して いつまでも元気で暮らそう

- 1 高齢期の運動器障害～骨粗鬆症を中心に～骨粗鬆症治療薬について
- 2 骨密度を上げる食事について 転倒予防の運動について

骨粗鬆症の方は、高齢化に伴って増加傾向にあります。高齢者の他、閉経後の女性はリスクが高くなるため注意が必要です。今年度は地域の皆様を対象に、骨粗鬆症予防についての講座を全2回シリーズで開催しました。骨粗鬆症のリスク検査や栄養、運動の重要性を知り、いつまでも住み慣れた地域でその人らしい生活を送っていただけるようお話ししました。

## 高齢期の運動器障害～骨粗鬆症を中心に～ 骨粗鬆症治療薬について

2023.11.17 (金) 14:00～15:00

講師： 医師 佐々木 正修  
薬剤師 小原 和久  
受講者数： 22名



▲ロコモテストを行っている様子

シリーズの初回は、骨粗鬆症の診断・治療・予防やロコモティブシンドローム、変形性関節症、治療薬について解説しました。講座の最後には、握力測定やロコモテストを行ったり、骨折評価ツール「FRAX」で、10年以内の骨折リスクを評価したりしました。健康的な生活習慣を心掛けたり、医療機関へ相談したり、正しく服薬するきっかけにさせていただき、骨を元気に保っていただけましたら幸いです。

### 参加者の声

- 知らないうちに骨密度が落ちているのではないかと不安になることがあるため、参考になった。
- 骨の新陳代謝などの仕組みを知らなかったが、今回の講座でよく分かった。
- 日頃からの転ばない身体作りが大切だと思った。
- 骨が3～5年で入れ替わる事を知ることができた。
- 骨折リスクやロコモ度がわかってよかった。



## 骨密度を上げる食事について 転倒予防の運動について

2023.12.15 (金) 14:00～15:00



◀ 骨粗鬆症や転倒予防の運動を行っている様子

シリーズ2回目は、骨密度を上げる食事と転倒予防の運動について講義を行いました。骨を形成したり、強度を持たせたりするために必要なカルシウム以外の栄養素やカルシウムの含有量の多い食材などについてのお話をしました。また講座の最後には、骨粗鬆症や転倒予防に効果的な運動を参加者の皆さんと一緒にを行い、楽しい雰囲気の中講座を締めくくりました。

講師： 管理栄養士 影山 典子  
理学療法士 林 壮一郎  
健康運動指導士 瀧 彩華  
受講者数： 22名

### 参加者の声

- 栄養指導から体操まで教えていただいたので、自分自身でも骨密度を充実させたいと思った。
- 運動を日々取り入れたい。
- 食事について、普段から気をつけているが、もっと気をつけようと思った。
- 背中を丸めがちだが、伸ばすようにストレッチをしようと思った。
- 実際に身体を動かすことができ、楽しかった。



## 西リハ 情報箱



退院患者さんや地域の皆様へ、生活に役立つリハビリの情報をお届けするサイト



スマートフォンからご利用の方は、QRコードをご利用ください。



パソコンからご利用の方は、西リハホームページにあるこちらのバナーをクリックしてください。

### デジタルサイネージ (電子掲示板)

西リハ情報箱の情報は、リハビリ訓練室などに設置しているデジタルサイネージでも一部公開しています。



### ワンポイントアドバイス

当院の広報誌「りはっぴねす」に連載中のワンポイントアドバイスには、各専門職からの生き生きと暮らすためのヒントを掲載しています。西リハ情報箱のトップページからぜひご覧になってみてください。



### @家 (あつとほ〜む)

片手が麻痺したり、力が弱くなくても、身近なものを使用して日常生活動作を工夫して行いやすくする方法等についてご紹介しています。西リハ情報箱のカテゴリーの”@家”より動画などをご覧いただけます。





## 「住民主体の通いの場」を支援 デジタル技術を活用しフレイル予防

📅 2024.3.6 📍 正覚寺 (広島市佐伯区利松)

広島市佐伯区の「あんのん体操クラブ」にて、デジタル技術を活用した通いの場支援が行われ、当院の岡光孝(作業療法士・地域連携部副部長)がスタッフとして参加しました。これは広島市によるフレイル予防の取り組みであり、「住民主体の通いの場」の皆さんのモチベーションアップや、集計データを今後の運営に活かす等を目的としています。参加者の皆さんは歩行姿勢の測定・タブレットでの健康チェック・握力測定を行い、療法士から結果の説明やアドバイスを受けました。お友達同士のおしゃべりにも花が咲き、活気あふれる会となりました。



▲ 検査結果で良い点・苦手な点を把握した上で、今後も引き続き運動をがんばりましょう!



▲ この日の様子はテレビ新広島「TSSライク!」(3月29日16:50～19:00)内でも放送されました。



▲ カメラに向かって6m歩くだけで即座に測定が完了。「速度年齢」「バランス年齢」「姿勢年齢」などが示されます。

当院は広島県・広島市の介護予防事業に協力し、他施設とも連携を取りながら、地域の住民主体の通いの場等に療法士を派遣しています(2023年度の派遣実績は46回、延べ51名)。最近はいきいき百歳体操に加え、「かみかみ百歳体操」など口腔機能をきたえる運動の指導への言語聴覚士派遣も増えています。



▲ 言語聴覚士による、介護予防拠点への「かみかみ百歳体操」導入支援の様子

## 令和5年度 第2回・第3回 広島脳卒中地域連携の会

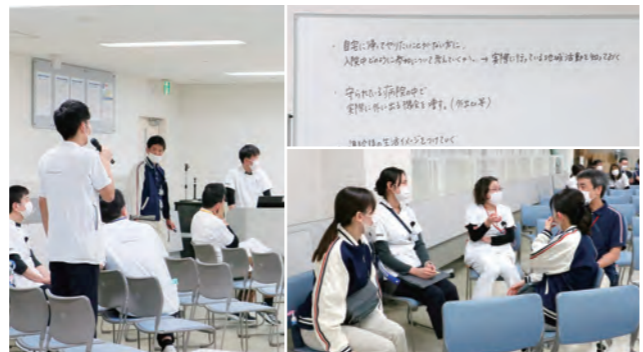
📅 2023.11.8・2024.3.13 📍 広島県医師会館



広島市域における脳卒中に関する医療・介護関係機関の連携強化をはかる会であり、当院は事務局として中心的な役割を担っています。第2回は岡本隆嗣先生(西広島リハビリテーション病院・病院長)より「リハビリテーションにおける国際生活機能分類(ICF)の活用」、第3回は三上幸夫先生(広島大学病院リハビリテーション科教授)より「医療保険の疾患別リハビリテーションから介護保険の生活期リハビリテーションへの一貫したリハビリテーション手法の確立について」、のテーマでご講演いただきました。

## 第41回 回復期・生活期合同症例検討会

📅 2024.1.17 📍 西リハ大会議室



当院では2012年より、回復期・生活期のスタッフによる合同症例検討会を行っています。コロナ禍以降はeラーニングも使用し、情報共有や意見交換を行っています。今回は、コロナ禍で身体機能が低下された方が、当院の訪問リハビリを利用し改善に至った事例について検討を行いました。ご自宅へ帰られた方が運動機会を減らさないようどのように働きかけができるか、そのために地域資源をどのように活用できるか、等について話し合いました。

※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点のものであり、現在は変更している可能性があります。 ※ 筆頭発表者・執筆者のみ表記しています。

※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:公認心理師 RD:管理栄養士

### 外部講演

- 2023.10.18 短期集中予防サービス実践事例報告研修会  
短期集中予防サービス(訪問型サービスC運動)を活用した実践事例報告 本田 賢次郎 (PT・西リハ訪問リハビリステーション所長)
- 2023.11.4 第7回 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会  
脳卒中後の上下肢痙縮に対する拡散型体外衝撃波の臨床応用 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.11.8 令和5年度 第2回 脳卒中地域連携の会  
リハビリテーションにおける国際生活機能分類(ICF)の活用 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2023.11.18 第21回 日本通所ケア研究会(合同開催)  
第18回 認知症ケア研修会 in 福山(日本通所ケア研究会)  
現場向け実技分科会「しゃべる・食べるを支えよう!」  
現場から学ぶ言語リハビリ 大瀧 浩之 (ST)  
現場から学ぶ言語リハビリと摂食嚥下リハビリ 荏原 幸恵 (ST)
- 2023.11.24-25 痙縮治療 UPDATE in 高知～A型ボツリヌス毒素製剤 ゼオメイン筋注用～  
痙縮患者に対するリハビリテーション治療～ボツリヌス毒素製剤・体外衝撃波などの併用～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)  
若年性脳出血を発症し10年以上経過した患者に痙縮に対する複数の治療方法を併用した症例 上森 奨悟 (OT・副主任)  
回復期リハビリテーション病棟における脳卒中後痙縮下肢に対しゼオメインを含む複数の治療アプローチを実施した症例 渡邊 匠 (PT・副主任)
- 2024.2.9 回復期リハビリテーション病棟専従医師研修会アドバンスコース  
回復期のリハビリテーション診療における痙縮治療 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.2.15 GSK Spasticity followup Symposium 2023 回復期～生活期の患者さんの治療アクセスを促すために～  
回復期～生活期の患者さんに、ボツリヌス療法をお届けするために～医療従事者に求められるTaskとは?～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.3.8 第43回 回復期リハビリテーション研究会 in 熊本  
シンポジウム1:チームの結束力!回復期を支える病棟マネジメント「回復期リハビリテーション病棟のチームマネジメント～院長の立場から 病院全体のマネジメント～」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.3.9 第43回 回復期リハビリテーション研究会 in 熊本  
栄養委員会企画:栄養管理のベストプラクティスを目指して  
[栄養管理に必要な病態やリハビリテーションの知識] 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.3.12 痙縮治療 UPDATE 病棟機能別痙縮・リハビリテーション治療  
特別講演2  
回復期リハビリテーション病棟入院中の痙縮患者に対するリハビリテーション治療～複数の痙縮治療の併用～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.3.16 KIMES 2024  
Korea International Medical & Hospital Equipment Show  
Spasticity Management in Stroke Patients With Radial Shock Wave 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.3.21 GSK 痙縮治療 conference  
ボツリヌス療法と保険制度  
～正しく理解し、治療につなげるために～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.4.26 GSK 痙縮治療 Webinar  
ボツリヌス療法早期導入と治療アクセス向上の意義 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

### 専門雑誌・書籍

- 2023.9.1 新医療 2023年9月号 第50巻9号 pp.76-79  
回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者に対する歩行支援ロボットの活用 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・SCR マネージャー) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.1.10 リハビリナース vol.17 No.01 2024  
特集 大腿骨頸部骨折の治療・看護・リハ  
pp.6-11 1. 脳卒中と大腿骨頸部骨折の疫学～データからみえる特徴～ 田中 直次郎 (PT・SCR マネージャー) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)  
pp.24-31 3. 脳卒中患者さんの摂食嚥下の看護とリハ 坂根 亜紀 (NS・副主任)  
pp.44-51 6. 認知症患者の大腿骨頸部骨折の看護 坂野 ゆかり (NS・看護介護部副部長・看護師長)
- 2024.1.10 総合リハビリテーション 第52巻第1号 p.1  
ひと 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会会長に  
なられた 安保雅博氏 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.1.17 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2024年1月(61巻1月号)※オンライン版  
クレアチンキナーゼが高値遷延した抗SRP抗体陽性筋炎の症例に対する回復期リハビリテーション病棟での治療経験 荒川良三 (DR) / 江崎 翔太 (DR) / 井上 実緒 (DR) / 前城 朝英 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2024.1.18 回復期リハビリテーション病棟協会機関誌 第22巻第4号(通巻87号) 2024年1月号  
pp.6-16 特集1 回復期リハビリテーション病棟 若手医師新春座談会 日域 佳 (DR)  
pp.17-28 特集2 リハビリテーション・ケア合同研究会広島2023 主催団体シンポジウム ソーシャルワーカー委員会企画「当事者のチカラを引き出す」専門職の  
関わり 山下 浩一郎 (MSW・副主任)
- 2024.3.10 リハビリナース Vol.17 No.2 2024 pp.90-95  
「やりたいADL」を目指して! ADL支援はココを抑える vol.4 また家事や手芸、夫との買い物ができるようになりたい 西原 鮎子 (NS・主任)

### 学会発表

- 2023.2.18 第49回 日本生体電気・物理刺激研究会  
脳卒中後患者の上肢片麻痺に対し集中的作業療法と低頻度 rTMSの併用療法の複数回施行の臨床有効性 江崎 祥太 (DR・東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座)



# チーム紹介！ 転倒予防 サポーターズ

朋和会のTQC活動「一点深掘り」にて  
見事 2023 年度優秀賞に輝いた西館  
2 階病棟のチームにお話を伺いました。

活動のテーマは？

**渡邊** 転倒予防の活動は3  
年目で、今回は「自立後  
早期「自室内」の転倒に焦  
点を当てました。病室ラ  
ウンドによる動作・環境  
のチェック、多職種による  
転倒カンファレンスでのリ  
スク把握等を行いました。  
**漆谷** 結果、自立後自室内  
の転倒は0件となり、確実  
に成果は出たと思います。

成果につながった対策は？

**漆谷** 自立の評価中は患者  
さんも気をつけて、スタッ  
フの注意をよく聞いてく  
ださるのですが、自立に  
なるとたんに自分の動作  
が行いやすい環境や方法  
に変えてしまいます。自  
立直後にもチェックを入れ  
ること、その部分を再度  
指導できるようにしたのが



が良かったと思います。  
苦勞・工夫したことは？

**田中** 時間のやりくりが難  
しかったので、役職者の中  
心に活動したんですが、結  
果として質の高いチェック  
ができたと思います。

また、自分のスタイルがあ  
る患者さんに対して、患者  
さんの意思を尊重しつつ、  
危険な環境や動作はしっか  
り指摘しないといけない、  
その判断が難しいことも  
ありましたね。

**渡邊** そつう時は医師の  
先生から言ってもらって、  
受け入れてもらえた、とい  
うこともありました。

**漆谷** 患者さんと環境や動  
作についてコミュニケーション  
をとる良い機会にも  
なつたと思います。

※ 自立…リハビリの用語で、介助や見守りなしで動作が行えると評価された状態のこと。歩行自立、車椅子駆動自立、トイレ動作自立 などがあります。

## 医療法人社団朋和会 基本理念

# 信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きな満足いただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見つめ、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会  
初代理事長 岡本則昭

## 医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅 6 丁目 265 番地  
TEL (082) 921-3230 (代表)  
FAX (082) 921-3237 E-mail wel@welnet.jp  
URL <https://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約 30 分 ★ 広電楽々園駅より車で約 10 分 ★ JR 五日市駅南口よりバスで 15 分

